

家庭教育力の強化を図ろう

～ 家庭・学校・地域の連携を築く P T A 活動 ～

西尾市立鶴城小学校 P T A

1 学区及び学校の概要

本校は、西尾市の北部に位置し、来年度、節目の創立 4 0 周年を迎える。学校周辺は、開校当時は田畑であったが、徐々に住宅地へと変わっていった。1 1 月 1 日現在、児童数は 7 7 4 名、P T A 会員数は 5 7 8 を数える大規模校である。近年、児童数は微減の方向にあるが、年度途中での児童の転出入が多いことや、全校児童の約 1 割を外国籍の児童が占めていることが本校の特徴である。このような環境の中でも保護者や地域のつながりは強く、教育活動にも協力的である。

2 研究のねらい

子どもの健やかな成長のためには、日々の生活のうちで多くの時間を過ごす学校の役割は大きい。ゆえに、家庭と学校が相互の教育について理解を深め合い、学校の教育活動に対して、保護者が積極的に学校を支援し、学校と協働していくことが大切であると考えます。そこで、P T A として学校を積極的に支援していく活動に取り組むことで、子どもたちの健やかな成長に寄与したいと考えました。

3 研究の方法

P T A 活動の充実を図り、家庭教育について学ぶ場づくりを進めることで、保護者が家庭における教育の重要性を理解し、子どもの教育に対する責任を自覚できるようにする。また、P T A 主催事業だけでなく、学校行事にも積極的に関わり、協力していくことで、家庭教育力の向上につなげるとともに、会員同士のつながりをより強固なものにする。そして、家庭・学校・地域が連携して活動し、子どもたちの健やかな成長につなげたい。

4 研究の実践

(1) P T A 主催事業

ア P T A 親子奉仕作業

夏季休業中の土曜日の午前中に行っている。P T A の呼びかけで希望した保護者と児童が除草作業に勤しむ。夏休みの間に伸びに伸びた校内あるいは学校周辺の雑草は、1 時間ほどの奉仕作業でほとんど姿を消していき、除草された量は 4 t コンテナに収めきれないほどになる。校内美化に献身的に協力する保護者の姿は、子どもたちの環境美化に対する意識を高めるとともに、自分たちが家庭や地域に支えられていることに気付くきっかけとなっている。

イ P T A 教育講演会

西尾市では、過去、いじめによって中学生が自殺した悲しい事件があった。命の大切さを忘れないよう、1 1 月 2 7 日を「やさしさいっぱいの日」とし、市内の全小中学校が道徳の授業実践・参観授業をしている。本校では、同日に P T A 主催で教育講演会を企画し、家庭の教育力向上につながるよう努めている。ここでは、令和元年度の教育講演会について述べる。

【講演の概要】

演題「命の授業 ～ドリー夢メーカーと今を生きる～」 講師 腰塚 勇人 氏

「ドリー夢メーカー」とは、自分の可能性を信じて夢を実現しようとする人、誰かの夢を知り応援しようとする人、誰かのありのままの存在を認め、思いやり、寄り添って生きる人のことである。ドリー夢メーカーは特別な存在ではなく、身近にいて、人は誰でも多くのドリー夢メーカーに助けられている。

誰かが自分のことを分かってくれることは生きる喜び・生きる力となる。みんな誰かの大切な命、たった一つの命。だからこそ、自分の命の使い方を考えよう。



【講演の感想】

- ・わたしたちがもっている一つの命は自分だけのものではなくみんなの命・・・。人として、親として誰かのドリー夢メーカーでいたいと思いました。(保護者)
- ・命は自分だけのものではないとわかりました。本当に命を大切にしないといけないと思いました。(児童)

保護者そして子どもたちにとって、命について考えるよい機会となった。今後も、家庭教育力の向上のため、毎年計画していく予定である。

(2) P T A 支援事業

ア 運動会

例年、運動会前日に行う観覧席の場所取りのくじ引きを P T A が行っている。くじ引きの案内作成からくじ引き当日の運営までを行っている。また、運動会当日には、駐車場立哨・案内を行い、運動会の円滑な進行に寄与している。そして、運動会の種目として P T A 競技を行い、保護者のがんばる姿を見せることで運動会を盛り上げている。運動会終了後には、器具やテントの片付けなどに進んで協力し、教員や子どもたちの負担を減らすように努めている。

イ 外国人児童保護者との懇親会

1 1 月下旬の土曜日の午前中に行っている。前半は、外国人家庭と日本人家庭、学校職員が一緒になってチームを作り、ソフトミニバレーボールを楽しむ。互いを応援しながら和気あいあいとゲームが進行する。後半の昼食会では、外国人児童の家庭からそれぞれの国の家庭料理が自主的に持ち寄られる。それに応えるために P T A からは、豚汁やたこ焼きなどの差し入れを振る舞っている。おいしい料理に舌鼓を打ちながら、会話も弾み、親睦を深めることができている。



5 成果と課題

家庭教育力の強化を図ることをねらいとして、P T A 主催の事業だけでなく、学校行事にも積極的に協力し、子どもたちの健やかな成長を促したいと努めてきた。我々 P T A にとっても、子どもたちの様子を把握することができ、学校と互いの情報を交換できるよい機会となった。今年度は、P T A 主催事業として気球に乗る企画や校区内を巡る親子ウォークラリーを計画していたが、コロナ禍のため中止せざるを得なかった。今後は、新しい生活様式に即しながら、より多くの保護者が参加できるような P T A 活動を目指し、子どもたちの健やかな成長を支えていきたい。